

B-13 接着芯接着布の寸法変化
奈良女大家政 ○金山真知子 丹羽雅子

目的 最近の接着芯地の普及に伴い、多くの種類の衣料に接着芯地が用いられるようになってきている。表地の伸縮挙動に関しては、現在までかなり詳細に研究がなされているが、接着芯地を用いた場合のそれに関しては、まだその緒についてばかりである。表地に芯地を接着する場合、接着させるためには表地や芯地にかなり苛酷な温度条件が与えられる。また接着後も各縫製工程中におけるプレスによって、接着布は表地単独での挙動とは異なる伸縮挙動をとることが予想される。本研究では、表地や芯地のそれぞれの伸縮挙動、芯地の接着により接着布がどのような伸縮挙動をとるのか、また接着布のプレスによる伸縮などを捉える。さらに在来の毛芯をそえる場合の表地と芯地の伸縮についても比較検討する。

方法 表地試料として、ウールおよびウールポリエステル混紡を素材とする男女学生服用カシドス、サージ、芯地試料として織布接着芯、編布接着芯、不織布接着芯を用いる。それぞれの接着芯に適切な温度圧力時間の接着条件で、ローラー接着により表地と芯地を接着し、表地につけられている標点間の接着前後の寸法変化から、接着による収縮率を算出する。また接着布のプレスによる収縮を、プレス前後の寸法変化から算出する。

結果 表地と芯地の接着により、接着直後において芯地の種類に拘らずかなり大きな寸法変化がみられ、特に編布接着芯を用いた場合にその変化が大きくあらわれた。また表地と芯地の組み合わせにより、収縮挙動に顕著な差がみられ、芯地の基布の相違が接着布の収縮におよぼす影響の大きいことなどがわかった。